

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)		-	-	-
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・気温が高く、夏物商材のエアコンが好調である。
		その他小売 [ショッピング センター]（統 括）	来客数の動き	・シネマ部門が引き続き好調であり、来客数は前年比からやや増加の傾向が続いている。それに伴って飲食店、食料品の売上が、前年比からやや増加で推移している。さらに、5月の気温変動が大きかったため、衣料品全体として徐々に前年比増となっており、全体的に好調となっている。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・前年同時期と比べると人が動いていると感じる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・朝のホテルの配車が非常に多い。また、観光の方の予約も順調に入っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今年のゴールデンウィークは天候に恵まれ、多くの観光客などでにぎわって良かった。北陸新幹線効果はまだ持続している。週末も人出が良かった。
		美容室（経営者）	それ以外	・1～2月は来客数、売上共に前年比で大きくマイナスとなったが、ここ3か月はわずかではあるが前年をクリア出来ている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新しく分譲住宅や分譲地の完成が進んだこともあり、見学会の来場が増えている。また、問い合わせや土地の引き合いが増えていることから需要の力強さを感じる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・ゴールデンウィークは天候が良かったこともあり、人出は分散し、今一つ伸びなかった。再開発地区に新設された専門学校学生を中心商店街に回遊誘致を図るべく、市の計画事業を中心にイベントを開催している。また、今月末から6月にかけて市の中心で催される行事を、購買力のアップにどう結び付けるかについて商店街各店の工夫が求められる。
		一般小売店[事務用品]（店員）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中の販売増を期待したが、来客数が少なく販売量も低調であった。
		一般小売店[鮮魚]（店員）	販売量の動き	・現状で販売状況が悪いわけではないが、忙しかったゴールデンウィークが終わり元に戻った。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・今月は食品催事や家庭など催事関係で来客数が増えており、食品や婦人洋品、婦人服を中心に好調に推移しているが、客単価は低迷している。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・食品や化粧品など一部で好調な商品はあるものの、中間層を対象とする婦人衣料品は依然として回復傾向がみられない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数は、ほぼ前年並みで推移している。客単価も変わらないため、売上はほぼ前年並みを維持している。6月の酒税法改正のため、5月中旬以降はビール等の売上が伸びている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・気温の変化により商品の売行きは前年と変わっている。しかし、全体としての売上や販売量は前年並みで推移していることから、変わらないと考える。
		スーパー（統括）	来客数の動き	・既存店の来客数が伸び悩んでいる。
		スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・販促強化を実施しているが、依然として来客数の回復がみられない。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・ほとんどの既存店舗では、夜間から深夜にかけての来客数が前年を大きく割り込んでいる。生活者の活動時間が短くなっているのか、交通量も減っているようである。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・さざ波もたないくらい、何の変化もない。
		家電量販店（本部）	販売量の動き	・季節や曜日などの要因を除けば、ほぼ前年並みの推移である。
	自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・連休後の集客は例年より多く、買上単価も前年からは向上しているが、買上点数は減少している。必要な商品だけを購入し、無駄な出費を抑える傾向は依然として続いている。	
	その他専門店[酒]（経営者）	販売量の動き	・今月はゴールデンウィークや地区の祭り、あるいは地区の運動会といった行事が結構あったのだが、やはり例年どおりパツとしない状況である。	

その他小売 [ショッピング センター]	販売量の動き	・今春期に大型モールが新規出店し、衣料や住まいの品を中心にゴールデンウィーク期間中にまで影響を受けた。伸長が低い状況にある中で顧客争奪が厳しい状態となっている。食料品部門は相場安が続いてメニュー提案がしやすくなり、売上確保ができています。ただし、客の購買はシビアで必要以上に買わない傾向である。
一般レストラン (統括)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は、前年同期を若干下回る来客数であった。忙しく、景気が良いと現場で実感することがない状況が続いている。一部で付加価値の高い商品の消費は良いと感じるが、全体ではじりじりと下がっている状態である。
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・5月は前年よりゴールデンウィークの日並びがよく、後半には宗教関係の大型団体客があった。しかし、国内個人客の落ち込みもあり、売上は前年比若干のマイナスになりそうである。
都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・部門ごとにばらつきがある。宿泊部門は引き続き底堅く推移している。レストラン部門では、地元客が価格志向が強く、またビジネス客が伸びない。
通信会社(店舗統括)	来客数の動き	・来客数はやや減少傾向であるが、大幅な変動ではない。
その他レジャー施設(総支配人)	来客数の動き	・競合店への会員の移動は、想定内に抑えられている。しかし、低価格帯の競合店には、こちらの予想以上に入会しているのと情報を得ており、まだまだ客の低価格志向が強いようである。会員数は横ばいの状況であるが、子ども会員の獲得に苦戦している。
住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・分譲物件や土地の問い合わせは増加傾向にあるものの、成約までには至らない。
住宅販売会社(営業)	来客数の動き	・住宅展示場への新規来場数が低迷している。
商店街(代表者)	お客様の様子	・近隣に大型ショッピングセンターが開業し、その影響がじわじわと出てきている。買い物はショッピングセンターへ行き、ぶらぶらと時間潰しには街中へ向かう。そんな様子である。
一般小売店[精肉](店長)	来客数の動き	・来客数が減少しており、この先もこのまま続くような感じがする。
一般小売店[書籍](従業員)	販売量の動き	・繁忙期が終わり、今の時期は1年で一番ものが売れないが、例年よりも販売量が若干悪く、来客数も減っている。
百貨店(売場主任)	来客数の動き	・3~4月の売上高は前年超えで推移したが、5月度は一転して前年割れの見込みである。催事場では来場者でにぎったが、ほとんどの来場者は要冷蔵品を購入すると帰路を急ぐため、各階の買い回りにつながらない。必要なものしか買わない傾向が強くなってきている。
スーパー(店長)	競争相手の様子	・競争店の販促の打ち方が強力になっていることから、競合店でも状況が良くないとみられる。
衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・衣料品に関しては底打ち感がなく、低価格戦略の大手と地方の中小零細企業の格差が、ますます広がっている。
衣料品専門店(経営者)	販売量の動き	・生活物価の上昇が続いており、より節約志向になってきている。
乗用車販売店(経営者)	お客様の様子	・客との商談日数が長く、前月と同様に販売量が少なくなっている。買い控えが続いている状況である。
乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・車検等の件数は悪くないが、自動車販売に関しては購買意欲があまり感じられない。
乗用車販売店(経理担当)	販売量の動き	・5月の販売量は前年同月比103%の見込みである。3か月前の販売量は前年同月比145%であったので大きく下向きである。
住関連専門店(役員)	来客数の動き	・月によってばらつきはあるものの、総合的にみると確実に売上の減少が進んでいる。5月はゴールデンウィークもあり来客数増加を期待したが、前年の実績にも届かなかった。
高級レストラン(スタッフ)	販売量の動き	・今年のゴールデンウィークは曜日並びがよく、5月中旬までは前年を上回る集客を続けていた。しかし、後半は来客数の伸びが失速し、昼の客単価が例年の90%しかない状態で苦戦を強いられた。
旅行代理店(所長)	お客様の様子	・出張旅費において、客の料金比較がシビアになっている。

	通信会社（役員）	販売量の動き	・インターネット接続サービスとテレビサービスが、共に加入者獲得に苦戦して契約数が減少した。3～4月の商戦期からの反動とゴールデンウィークの影響が考えられる。	
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品が発表される時期であり、買い控えが発生している。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・今年に入り契約獲得数が前年を下回る月が続いていたが、新年度に入ると更にその傾向が顕著になっている。客は新たな支出に慎重となっているようである。	
	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・ここ3か月の推移を前年比でみると、国内の団体客が好調である一方で、国内個人客やインバウンド客が減少傾向にある。全体としてはやや悪くなっているようである。	
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・長い連休もあり、開店以来最悪の赤字となる予想だったが、悪かった前年と同じく大変忙しい状況で通常の3割減の売上となった。一方で、駅前の食事処や居酒屋などは大変忙しいと聞いている。
	×	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上は74%、宿泊人員74%、宿泊単価98%と、高額商品が売れない状況にある。
企業 動向 関連 (北陸)		*	*	
		食品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月は前年同月を上回る傾向である。一般小売用はどちらかといえば苦戦しているものの、業務用や輸出用商材は好調に推移している。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内市場が順調に伸びている。結果が公表された、ものづくり補助金が影響している。
		精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・客先の決算期に向けた在庫調整が一通り終わったところで、一部の顧客を除いて店頭での販売量が上向しているという客先が増えている。季節変動を除いても、市場の状況としては数か月前よりは良くなっている。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・ゴールデンウィーク期間には、ホテルや飲食、土産物店等の観光関連が堅調で潤ったとの話を多く聞いた。製造業からは、現在まとめている3月決算がまずまずの数字となりそうな報告を受けており、全般に景気はやや良くなっている印象である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・山岳観光ルートへのインバウンド客が増加している。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産関係の同業者の話を聞くと、少し動きが出てきているということである。一部では大変忙しそうなお人もいる。
		司法書士	取引先の様子	・駅周辺ではあるが、空家や遊休地の処分が進んでいる。
		税理士（所長）	取引先の様子	・取引先の企業の様子から比較的見通しは明るいのではないかと考える。過去の数か月から、将来の見通しが立ってきている経営者が多くなっている。ただし、飲食店関係については収入の格差があるのではないかと考える。収入の低いところはなかなか上がらず、どうしても安売り傾向にあるため利幅が厳しくなると聞いている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注に勢いがなく、受注量確保に苦労している。特に国内の衣料消費低迷による影響を受けている。資材関連及びユニフォーム関連は堅調に推移している。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・非衣料分野の資材関連が非常に順調である一方で、日用衣料は価格が非常に厳しい状況である。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前年に比べて受注量が多い。
		建設業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・特に北陸三県の受注競争が激化しており、受注価格の低下で競争環境は厳しさを増している。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・最近話題となっている人手不足による運賃の値上げとなった。それが、そこそこ利益に還元されるようになってきた。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年のことではあるが、3か月前は年度末の3月末工期の工事の完成に向けて、元請、下請工事共に多忙であった。しかし、4～5月は年度初めでもあり仕事量が少ない。工事現場ではなく、社内で倉庫の片付けに携わる従業員が増えている。
		×	-	-
雇用		-	-	-

関連 (北陸)	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・ 求人広告の動きは、一昨年のレベルには戻っていないものの、前年に比べると40%近く売上が上がっている。また内容についても、全体件数はそれほど大きく変わらないものの、パートやアルバイト募集が減っているのに対して、正社員は20%強増えている。さらに、前年はほぼなかった契約社員の枠が大きく増えて、一昨年に比べても4倍になった。正社員の動きが劇的に変わらない代わりに契約社員採用の動きが増えており、企業側の、より広い人材へのアプローチが本格化している。まだまだ積極的な求人トレンドは、景気にもつながると考える。	
	新聞社 [求人広告] (営業)	求職者数の動き	・ 県内企業に対して、求人特集などを提案すると反応がよい。	
	人材派遣会社 (役員)	求職者数の動き	・ 依然として有期雇用契約への求職者が少ない。求人内容とのマッチングに難航している。	
	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・ 求人数がほとんど変わらない。	
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 新規求人数は、前月比と前年同月比からみると増加している。しかし、景気の動きに関連してのものではなく、世代交代等の補充や欠員求人が多い。	
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 4月の有効求人倍率は1.77倍となり、前年同月より0.21ポイント上昇した。86か月連続で前年同月を上回っているが、新規求人数において前年同月比で9.0%の減少と、やや減少にあることから今後の状況については変わらないと考える。	
	民間職業紹介機関 (経営者)	求人数の動き	・ 有効求人倍率が高いが、求職応募者が少ない。ますます人手不足感が強くなっている。	
	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・ 製造業やIT関連企業を中心に、求人票が前年比で多く出ている。この傾向は、今年の求人活動が解禁されてから変わらない。	
		-	-	-
	x	-	-	-